

浦安キャンパスファカルティ・ディベロップメント委員会

本総評は、2021年度（令和3年）後学期に実施した浦安キャンパスにおける「学生による授業評価アンケート実施結果」について、各学部学科及び教育センターFD委員による集計結果分析に基づき、全体の傾向と特徴、明らかになった課題及び今後の授業改善に向けた方策についてまとめたものである。

1. アンケート実施結果の概要

(1) 実施期間

第1回 2021年10月11日（月）9：00から10月23日（土）23：55まで

第2回 2021年12月13日（月）9：00から12月25日（土）23：55まで

(2) 実施対象

第1回 全教員、631科目

第2回 全教員、632科目

（ただし、ゼミの授業科目、履修者5名以下の授業科目及び再履修者のみが履修する授業科目を除く。また1教員あたり同一名称の授業科目が複数ある場合は、履修者最多の授業科目を対象とする。ただし、FD委員長が必要と認めた授業科目は追加することができるものとする。）

(3) 調査方法

Web入力方式（スマートフォンやパソコン等を利用して、アンケート実施期間中の任意の時間にWebポータルシステムから回答する。）

(4) 評価方法

5段階評価（5.満足、4.やや満足、3.どちらともいえない、2.やや不満、1.不満）

(5) 質問項目

授業について7項目、その他（学生自身について）

(6) 回答率

第1回 42.4%（延べ回答者数11,116人）

第2回 35.2%（延べ回答者数9,248人）

（回答率＝回答者数÷履修登録者数：延べ回答者数）

2. 集計結果と分析

表1は、2020年度後学期と、2021年度前学期と、2021年度後学期の各学科のアンケート回答率である。アンケート回収率に関しては、前学期より後学期の方が低下する傾向にあり、同学期中に行う第1回と第2回では、第2回の回収率が低くなる傾向がある。また、対面でアンケート用紙による実施に比べ、ウェブでのアンケートは回収率が低い傾向がある。事実、ほとんどの授業を遠隔で行い、アンケートも遠隔で実施した2020年度は学生による授業評価アンケートの回答率が、アンケート開始以来、最も低く、全体平均は、2020年度後学期第1回目が28.5%、第2回目は18.7%であった。

そこで、2021年度の前学期からは、学内人流を減らしつつ、教育効果の向上を図る方策として、①専門科目については学部別に対面授業と遠隔授業を交互に実施し、②人間力形成科目は一部を除き遠隔で実施し、③大学院、教職科目、そのほか各学部・センターにおいて指定された科目は毎週対面で実施し、③保健医療学部の授業は対面で実施することになった。つまり、アンケート回答期間が2週間あれば、そのうち1週間はすべての学部で対面授業回に該当する。そこで、アンケート回収率向上を図るため、実施方法について、

「アンケート実施期間中に対面での授業実施がある場合は、その対面授業内でアンケート回答の時間を設け、履修者にアンケート回答をするよう指示する。」との文を付加した。その結果、学期中にアンケートを2回実施するようになった2019年度後学期第1回59.8%、第2回51.2%には及ばないものの、2020年度と比較して、回答率は飛躍的に向上した。しかしながら、ほとんどの学科で、アンケート回収率が前学期に及ばず、また第1回より第2回目の回収率が低い傾向は変わらなかった。

学科ごとの特徴としては、回答率が最も高いのは第1回目、第2回目とも中国語学科で、62.5%と55.6%、次いで英米語学科が58.8%、45.8%であった。他方で、回収率が低かったのは、第1回目が不動産学科(32.2%)、経済学科(36.9%)、HT学科(42.3%)であり、第2回目は経済学科(29.0%)、不動産学科(31.5%)、HT学科(3.6%)であった。第1回と第2回で回収率の減少が著しかったのは、口腔保健学科(25%減)、英米語学科(22%減)、経済学科(21%減)であった。

表1 学生評価アンケート回答率(2020年度後学期・2021年度前学期・2021年度後学期)

|                  | 全体    | 日本語<br>学科 | 英米語<br>学科 | 中国語<br>学科 | 経済<br>学科 | 不動産<br>学科 | HT<br>学科 | 口腔保<br>健学科 |
|------------------|-------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|------------|
| 2020年度<br>後学期第1回 | 28.5% | 32.0%     | 24.5%     | 50.6%     | 24.8%    | 25.6%     | 24.6%    | 55.8%      |
| 2020年度<br>後学期第2回 | 18.7% | 22.2%     | 15.1%     | 35.3%     | 17.9%    | 17.3%     | 16.1%    | 29.6%      |
| 2021年度<br>前学期第1回 | 57.2% | 82.8%     | 64.9%     | 75.5%     | 52.1%    | 50.9%     | 56.8%    | 65.9%      |
| 2021年度<br>前学期第2回 | 45.3% | 80.1%     | 60.2%     | 64.1%     | 37.7%    | 38.9%     | 40.4%    | 42.2%      |
| 2021年度<br>後学期第1回 | 42.4% | 51.2%     | 58.8%     | 62.5%     | 36.9%    | 32.2%     | 42.3%    | 55.9%      |
| 2021年度<br>後学期第2回 | 35.2% | 43.9%     | 45.8%     | 55.6%     | 29.0%    | 31.5%     | 36.6%    | 42.0%      |

表2・グラフ1は、学科ごとの授業外学習平均時間の推移である。選択肢は、ほとんどしなかった(5分以内)/30分未満/30分以上1時間未満/1時間以上2時間未満/2時間以上3時間未満/3時間以上、の5つで、それぞれの回答を0分、15分、45分、90分、150分、180分として算出した平均値である。

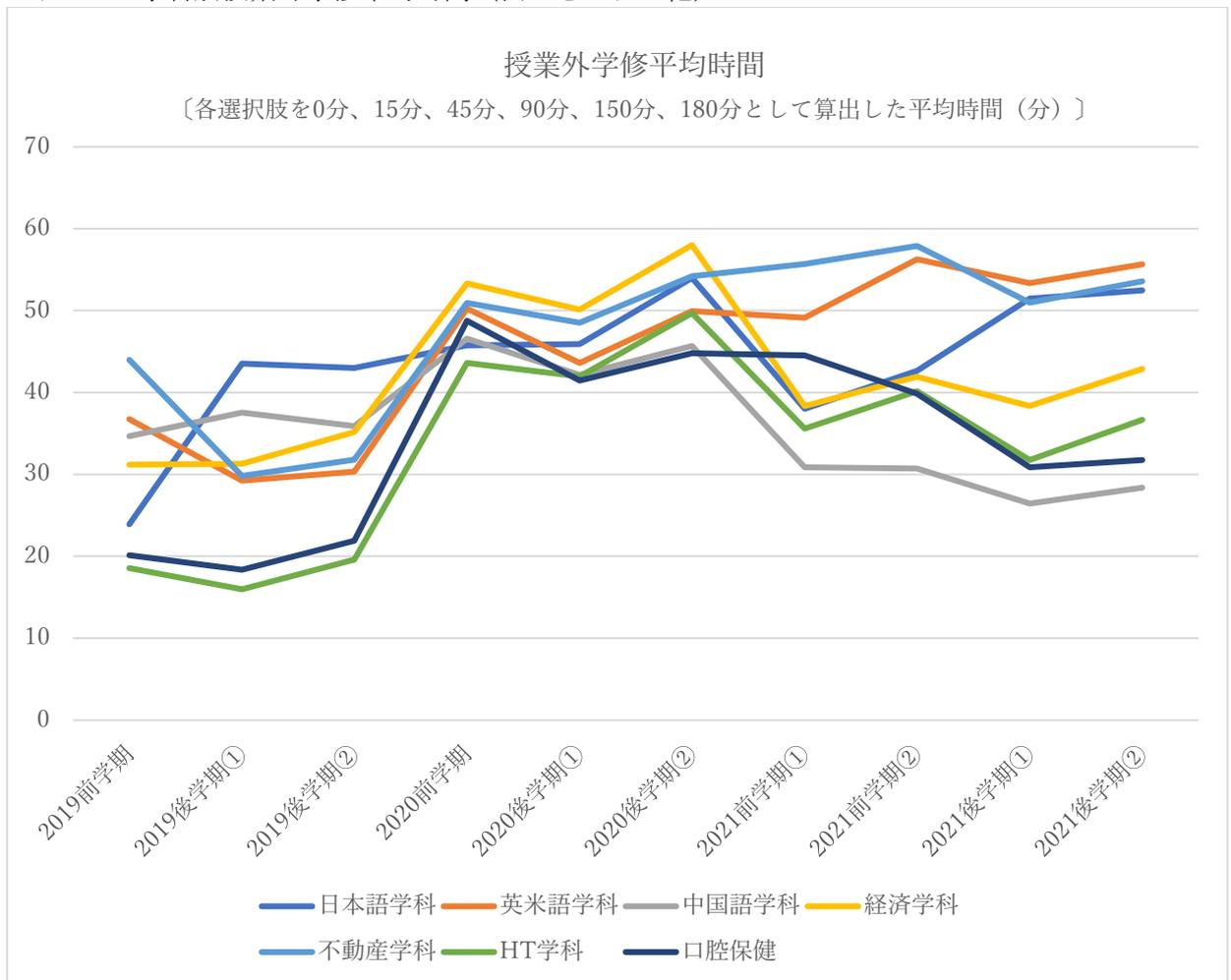
グラフ1からわかるように、全体として2020年度後学期②までは増加傾向にあったが、それに続く2021年度前学期では、日本語学科、中国語学科、経済学科、HT学科は学修時間が大幅に減少し、口腔保健学科は微減となり、英米語学科と不動産学科は同ペースで増加した。その後、平均学修時間は30分程度の学科(中国語学科、HT学科、口腔保健学科)と、50分以上の学科(日本語学科、英米語学科、不動産学科)に分かれてきているが、経済学科は唯一、2021年度前学期2回目より学修時間が長くなり、42.88分となっている。

表2 学科別授業外学修平均時間

|           | 2019<br>前学<br>期 | 2019<br>後学<br>期① | 2019<br>後学<br>期② | 2020<br>前学<br>期 | 2020<br>後学<br>期① | 2020<br>後学<br>期② | 2021<br>前学<br>期① | 2021<br>前学<br>期② | 2021<br>後学<br>期① | 2021<br>後学<br>期② |
|-----------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 日本語<br>学科 | 23.91           | 43.54            | 43.00            | 45.75           | 45.93            | 53.99            | 38.02            | 42.67            | 51.48            | 52.46            |
| 英米語<br>学科 | 36.74           | 29.24            | 30.32            | 50.24           | 43.63            | 49.95            | 49.13            | 56.27            | 53.37            | 55.66            |

|            | 2019<br>前学期 | 2019<br>後学期① | 2019<br>後学期② | 2020<br>前学期 | 2020<br>後学期① | 2020<br>後学期② | 2021<br>前学期① | 2021<br>前学期② | 2021<br>後学期① | 2021<br>後学期② |
|------------|-------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 中国語<br>学科  | 34.69       | 37.56        | 35.89        | 46.57       | 42.15        | 45.7         | 30.89        | 30.72        | 26.44        | 28.40        |
| 経済学<br>科   | 31.19       | 31.28        | 35.18        | 53.31       | 50.13        | 58.00        | 38.37        | 41.93        | 38.36        | 42.88        |
| 不動産<br>学科  | 43.98       | 29.82        | 31.81        | 50.95       | 48.53        | 54.2         | 55.69        | 57.9         | 50.97        | 53.58        |
| HT学<br>科   | 18.56       | 15.97        | 19.61        | 43.61       | 41.97        | 49.7         | 35.61        | 40.14        | 31.76        | 36.65        |
| 口腔保<br>健学科 | 20.13       | 18.36        | 21.89        | 48.76       | 41.46        | 44.8         | 44.53        | 39.85        | 30.86        | 31.77        |

グラフ1 学科別授業外学修平均時間（表2をグラフ化）

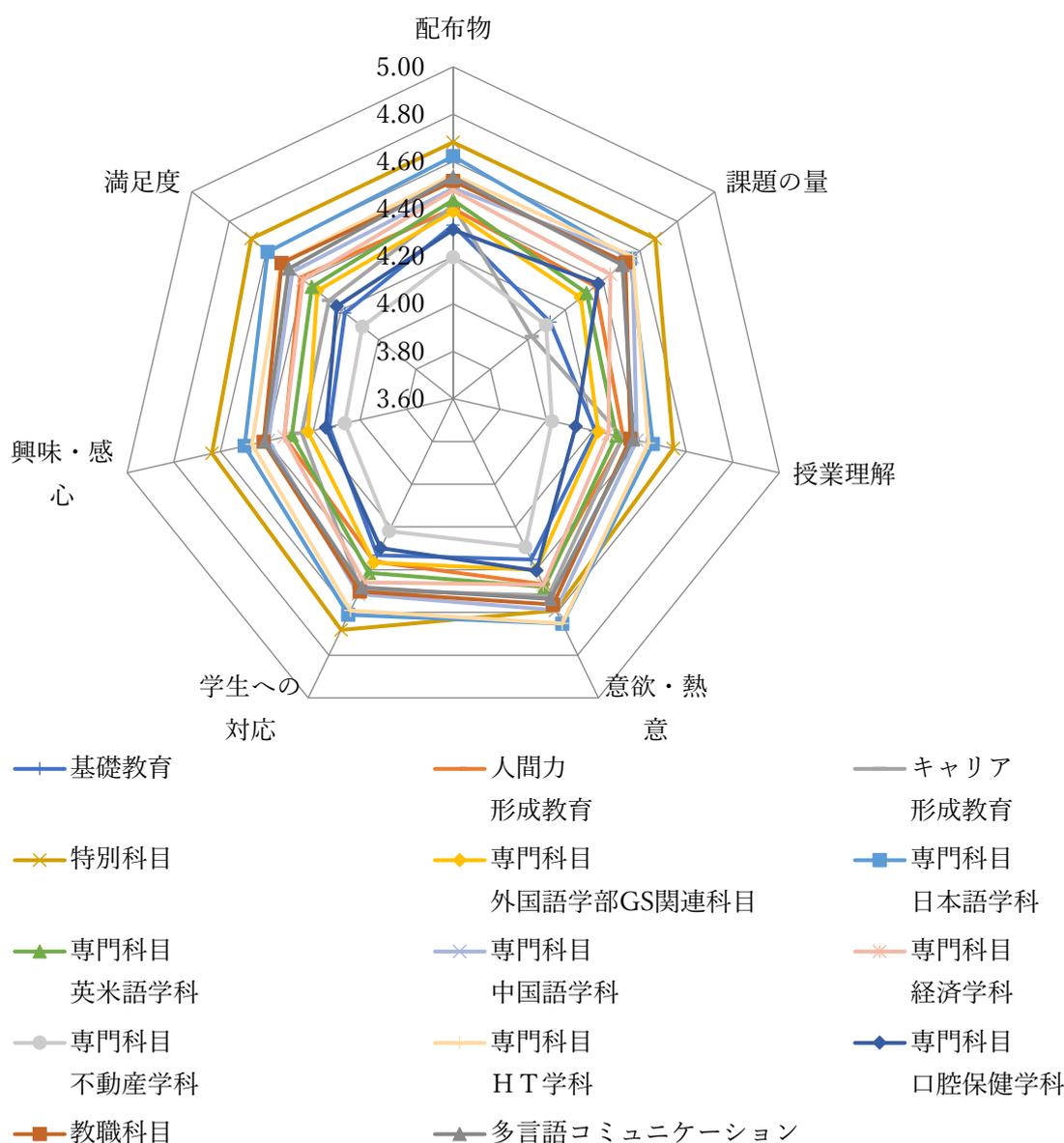


グラフ 2、3 は、アンケート項目に対する科目区分別の回答である。アンケート項目は、1 配布物は読みやすかったですか 2 課題の量はあなたにとって適切でしたか 3 授業の内容を自分なりに理解できましたか 4 教員の授業に対する意欲や熱意は感じられましたか 5 教員の学生への対応(質問等)は適切でしたか 6 この授業で興味や関心が深まりましたか 7 この授業に対するあなたの満足度をお答えください の7項目である。

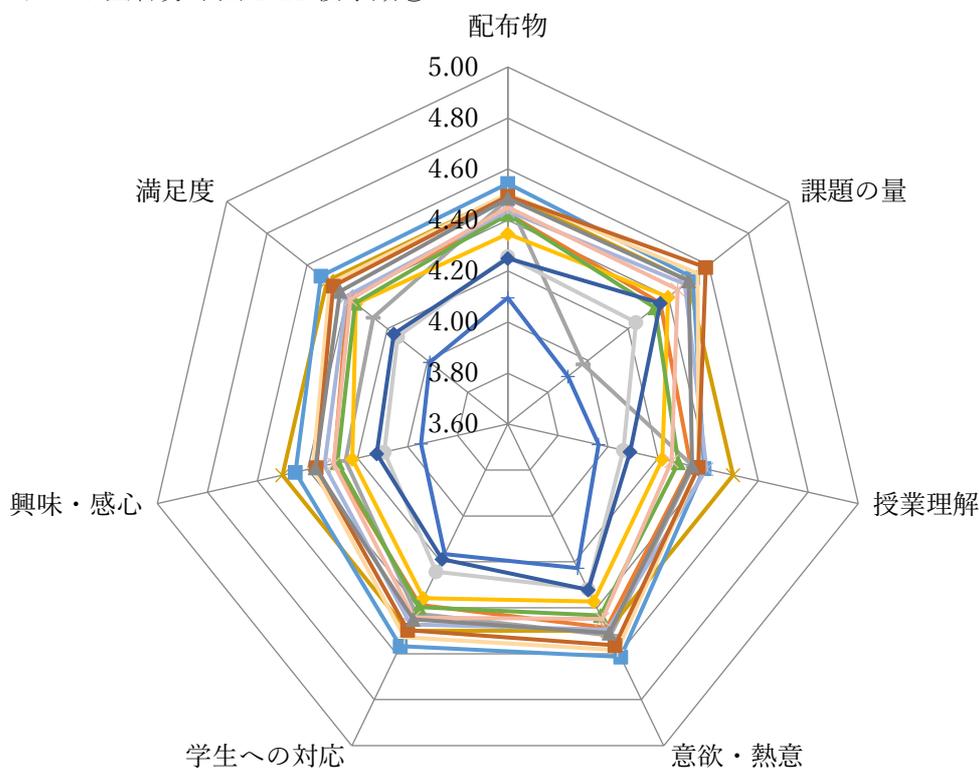
2021年度後学期①(グラフ2)では、全学科、全項目で3点台は一つもない。各質問項目では、理解度と興味・関心の項目のスコアが低い。

2021年度後学期②(グラフ3)では、基礎教育部門で3点台が4項目(課題の量、理解度、関心、満足度)、キャリア形成教育で1項目(課題の量)となり、全体としては満足度が低下傾向にある。学科ごとの専門科目では、日本語学科が7項目中6項目でベストスコアであり、逆に不動産学科が5項目、口腔保健学科は3項目で最も低い評価がされている(教員の熱意につき、4.32で不動産と同率)。

グラフ2 アンケート回答分布図 2021 後学期①



グラフ3 アンケート回答分布図 2021 後学期②



- |                   |                         |                    |
|-------------------|-------------------------|--------------------|
| —+— 基礎教育          | — 人間力<br>形成教育           | — キャリア<br>形成教育     |
| —×— 特別科目          | —◆— 専門科目<br>外国語学部GS関連科目 | —■— 専門科目<br>日本語学科  |
| —▲— 専門科目<br>英米語学科 | —×— 専門科目<br>中国語学科       | —*— 専門科目<br>経済学科   |
| —●— 専門科目<br>不動産学科 | —+— 専門科目<br>HT学科        | —◆— 専門科目<br>口腔保健学科 |
| —■— 教職科目          | —▲— 多言語コミュニケーション        |                    |

### 3 明らかになった課題

授業評価アンケート実施の集計結果と分析に基づき、明らかになった主な課題は、以下の通りである。

#### (1) アンケート回収率の向上

アンケート回収率が、第1回目 42.4%から 35.2%と低下していることが問題である。昨年度からの推移をみても、継続して低減していることがわかる。

対面授業の授業時間中に、教室内でアンケート解答時間を設けていただくよう各学部学科の教授会等でFD委員から教員へ要請しているが、回収率が上がっていない。

アンケート実施教員には、学生がアンケートに回答したかどうか分からないというシステム上の課題もある。用紙でのアンケートを再度検討するなど、引き続きこの点についての検討が必要である。

また、第1回目に比べて第2回目の回答率が減少する傾向がある中、ほとんど減少しなかった学科と大幅に減少した学科とがあることから、アンケート実施方法についての情報交換が重要と思われる。

#### (2) 授業外学修時間確保の方法

2021年度前学期から後学期にかけて、授業外学修時間が二極化傾向している。30分前後の学科と50分超過の学科とが生じ、経済学科は30分前後グループから脱しつつある。

対面授業とmanabaでの遠隔授業を併用した授業運営が影響しているのか、他の要因があるのかを分析する必要がある。

#### (3) 理解度のスコアの向上

後学期1回目も2回目も、いずれに学科においても講義理解度のスコアが最も低いか低い傾向にあることが顕著である。授業外学修時間が2番目に長い不動産学科が、理解度の項目が低く、3番目に長い日本語学科は理解度が最も高いことから、学修時間と理解度との相関性は見られないと思われる。理解度を向上させる方策の検討が必要である。

### 4 今後の授業改善に向けた方策

アンケート回収率が低く、真摯に積極的に授業に取り組んでいる学生が多くアンケートに回答している可能性も高いため、分析の結果はあくまで参考地にならざるを得ない。

アンケート実施方法も含め、アンケート回収率を向上させる方策を検討することが必要である。

そのためには、学生がアンケートに回答しているかどうかを教員がある程度把握する必要があると思われる。回答の内容に関しては教員がみることがあってはならないが、回答したかどうかを確認できるようにすることは、回収率を向上させるための一つの方策であろうと思われる。システム等の変更を伴うものと思われ、予算等の措置が必要となるという問題はあるが、検討の余地はあろう。

また、講義の理解度に関しては、対面と遠隔の隔週授業での授業運営の困難さも一因と思われる。まだしばらくは新型コロナウイルス対策を十分にたてつつ授業運営をしていく必要があると思われることから、遠隔授業時も対面授業と同様の緊張感、即時性、臨場感を受講者に感じられるような授業運営をしていくことが求められる。

そのためには、zoomやGoogleミート、映像の編集、またmanabaも活用しての授業運営がますます重要になってくると思われることから、教員がそうしたツールを使いこなせるよう修得機会を与えることも一つの方策と思われる。

以上